

スト破り暴力集団のデマ情報弾！

日刊 動労千葉

80.4.23
NO. 410

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
電話二二五八一九(公衆電話三三二七二〇七)

当局に『正式文書』で動労千葉への弾圧を要請！

動労千葉の八〇春闘決戦ストを暴力をもって破壊すべく、権力・当局の庇護のもとに津田沼へ送り込まれた自称二百六十名(「再建情報」No.20・一九八〇・四・一六付)のヘルメット集団は、動労千葉千四百の怒りの前に、その策動を見事に粉碎された。この暴力襲撃によるスト破りの破産に直面した「本部」暴力スト破り集団は、権力・当局に泣きつき、まさに、労働組合にあるまじき「正式文書」による動労千葉への処分要請を行い、一方では、自らのこの間の「四・一七」をはじめとする暴力集団の実態を動労千葉の上に顕著するウソ八百のデマ宣伝を開始した。「再建情報」No.20(四・一六付)、No.21(四・一七付)はこのデマ宣伝の典型である。

明々白々の事実経過

まず、八〇春闘決戦段階の「四・一五」における事実経過は次の通りである。

「1」四月十四日、急きよ「津田沼特別班」を結成しスト破り策動開始。(津田沼への短期転勤者はこの「特別班」について「全く知らない」と証言)ここに「本部」革マル反動分子の言う「再建」のデタラメさが端的に示されている。そもそも「特別班」とはいかなる規約・規則にもとづくものなのか。

「2」四月十五日、午後、「二百六十名」のヘルメット部隊が行動を開始。十六時四十分津田沼電車区へ入り、津田沼拠点集會に結集しつつあった動労千葉の組合員七十名に対し、威嚇、挑発を開始(この「二百六十名」のヘルメット部隊投入についても短期転勤者は全く知らされていない)。

「3」このスト破壊集団は時間の経過とともに連続結集する動労千葉と国労の組合員に恐怖し、村上、竹内らの指示により、庁舎の側の動員者を立たせたまま、線路側の動員者を座らせ、石を集め、用意の袋やポケットに詰め込む(この「石集め」は動労千葉や国労の多くの組合員や当局に見られており、津田沼における裏切者でさえも「あれはまさかだった」と言わざるを得ない状況にある)。

「4」さらに恐怖した村上、佐々木等はあらかじめ用意したマイクロボスの大量の青竹を持ち込み、うとして一旦は当局に阻止されたが最終的に十本以上を持ち込む(これも、動労千葉や国労の多くの組合員に現認されている)。

「5」十七時三十五分頃、動労千葉は続々と結集する組合員の待機場所を確保する為に先頭部隊を庁舎前まで移動を開始したところ、恐怖にかられたスト破り集団は、突如としてヘルメット隊を突っこませ、後方から投石と竹竿をもって素手の動労千葉部隊に襲いかかり混乱が起った。しかし、突っ込んできたスト破り集団は動労千葉組合員の

(4月15日、津田沼電車区)



「本部」反動集団の暴力襲撃をうち破り、4・16ストを貫徹した津田沼支部。

怒りの前に一瞬にして四散。

「6」動労千葉は直ちに部隊を庁舎末端まで下げ混乱を收拾。怒りに燃えて「八〇春闘総決起集會」を開催。玄関前にうちふるえていたスト破り集団は、当局に「千葉が先に手を出した」ことを認めると哀願。国労の集會が終るのを待ち兼ねたように中庭(国労の集會場所)を迂回して動労千葉六百余名の怒りのシュプレヒコールの前を退散。

労働運動とは無縁なデマ情報の実態！

以上の事実経過は、動労千葉はもちろん、国労組合員、そして当局でさえも眼前にしたことである。

この事実に対し、デマ情報No.20では、①「動労千葉が計画的にやった」と八項目のデタラメをデッチ上げ、②「当局が動労千葉の(動きを)助長

(裏へつづく)

した」と主張し、③当局に対しては「少くとも今回の集団・暴行事件に關しては、従来のような『ケンカ両成敗』式対応は決して許されないと考えています」と動労千葉への弾圧を哀願しているのです。
(傍点筆者)

まさに、手前勝手の見本というべきである。この間の「本部」革マル反動分子のあらん限りの暴力を動労千葉の組合員が知らないとも思っているのか。

「四・一七」の津田沼支部における革マル学生を先頭に竹竿、投石、カケヤ、ペンチ、ノコギリまで用いて片岡支部長以下に頭蓋骨々折の重傷を負わせた「集団暴力事件」について一体どう説明しようというのか。白昼公然、明々白々の「四・一七」について権力・当局がどう対応したというのか。「ケンカ両成敗」であったとも言えるのか。動労千葉は「四・一七」について権力への証言を拒否して罰金刑を受けている。

それに比べて、デマ情報版21で、レイレイしく書きたてている「正式書面による申し入れ」とは一体なにか。

デタラメな「概略」を書き連ね、動労千葉組合員を名指して弾圧を要請している。これこそが「労働運動とは無縁」なスト破り集団の実態である。まさに、今や「本部」革マル反動分子は労働者労働組合とは認められない実態の中にあると言わなければならない。

あらゆる暴力と弾圧攻撃粉砕！

そもそも、今回の「四・一五」は破産した「再建」の実態を隠蔽し、全国の良心的・戦闘的動労

組合員の目をごまかし、動労のセクト的引きまわしを継続しようとする反動分子が、「特別班」をデッチ上げ、動労千葉の八〇春闘決戦ストを破壊しようとしたことに根源がある。

津田沼への「二百六十名」のヘルメット集団は、いかにも理屈をつけようがスト破り暴力集団以外の何ものでもないのだ。

事実経過は冒頭明らかにした通りであり、スト破り暴力分子がいかなるデマ宣伝を行おうが、事実は動労千葉と国労の多くの組合員が見た通りであり、その事実は乗務員の乗り入れその他の日常的交流を通して、すでに全管内に正しく伝わっており、スト破り暴力分子がデマ宣伝をすればするほど、自らの墓穴を掘ることになる以外の何ものでもないのである。

この明白な事実を前に、権力・当局は、このスト破り暴力集団を尖兵とし、スト破り暴力集団の職場への投入を容認し、口実とする動労千葉への弾圧願望を強めている。

この間、三十五万人体制攻撃に対して、また、三里塚・ジェット闘争を動労千葉が最も原則的にかつ断固として闘ったが故に、そして、今後も闘い抜く決意に燃えているが故に、「五五・一〇」「五六・三」を目前にした今日の動労千葉への弾圧策動の強まりがある。

しかし、われわれはこの弾圧を原則に踏まえ、千四百名労働者の団結によって断固粉砕する。

全組合員がマル生を、船橋事故闘争を、そして三里塚・ジェット闘争を闘い抜いた英知と勇気を結集するならば、勝利は確実であり、われわれはその力を現に持っている。

自信と確信を新たに、さらに決起してゆこう。

スト前後 労経真衝突

また津田沼 電車区で

もみ合い13人ケガ

動労千葉本部組合員押ししかけ

ヘル部隊衝突、ケガ八人

動労本部 千葉動労の集會にの三百人

午後四時半ごろ、船橋市前原の国鉄津田沼電車区で動労千葉の組合員約八十人がスト前後の紛争を契機として集會を準備していた。対立を呼び起す動労本部幹部のヘルメット姿の組合員三百人が押ししかけ、入り出した。同時間帯半ごろにかけて約三百三十人が集會上がった。動労千葉が電車区内でデモ活動したが、この日、本部組合員と衝突、双方が小石を投げ合う騒動となった。

ストライキを二日後に控えた千原西一ノ三、国鉄津田沼電車区でスト前後の紛争を契機として、動労本部の集會約三百人が押ししかけ、決起集會をしてきた動労本部の組合員と衝突し、双方が小石を投げ合う騒動があった。

この衝突で双方の八人が重傷など何者にもケガをした。労組の活動は判断がつかない」と話している。この日、ヘル部隊と衝突した動労本部の組合員約三百人が押ししかけ、決起集會をしてきた。動労本部の集會にの三百人が押ししかけ、決起集會をしてきた。